

天遊

大阪教育大学 広報誌

VOL.10 2008. AUTUMN

特集

「教育職員免許状更新講習への取り組み」

授業紹介

専攻専門科目「心理学基礎実験」「心理学研究法」 教授 高橋登
教養基礎科目「健康科学への招待」 教授 高折和男

センター紹介

国際センター

附属学校紹介

附属高等学校 平野校舎

トピックス

新役員紹介

大阪教育大学リポジトリ

学生チャレンジプロジェクト

明日のために、一歩前進！



教育職員免許状更新講習への取り組み

学校現場の課題と本学の教育研究が
いっそうかみ合うために

天王寺キャンパス ミレニアムホールで開かれた研究集会

1 教員免許状更新制度とは？

これまで学校教員の免許状は、いったん取ればそれを一生持ち続けることができました。ところが、2007(平成19)年6月に制定された法律「改正教育職員免許法」により、この免許状は10年ごとに更新しなければならなくなりました。旧免許状を持つ人も例えば2009(平成21)年4月2日(翌年4月1日)までに35歳、45歳、55歳になる人は来年度か再来年度に更新講習を受けなければなりません。一度免許状を取ったからと言って、それでいつまでも教員が続けられるわけではなくなったのです。

免許状を更新するためには、「教育の最新事情に関する事項」を学ぶ必修講習を12時間以上、「教科指導、生徒指導、その他教育の充実に関する事

教員免許状更新講習実施専門委員会

委員長 森 実もりの

(教職教育研究開発センター長)



天王寺キャンパスでのパソコン研修

項」を学ぶ選択講習を18時間以上受講して、試験に合格しなければなりません。教育委員会等でもこの講習を開くことはできませんが、主催者の中心は本学など、教員免許を取得するための教職課程を提供している大学です。この講習は、来年の2009（H21）年度から正式に始まり、今年度は各地の大学で予備講習や試行が行われています。

2 免許状更新が必要な人は？

これから免許状を取る人たちだけではありません。すでに教員をしている人も含めて、更新をしなければならのです。従来、教員免許状は生涯にわたる免許状でしたから、以前に取得していた人にとっては約束が変わったことにもなります。

さらに、現在教員をしている人にとつては、この免許状更新に失敗すれば、教職を続けることができなくなり、失職せざるを得なくなります。教職にある人たちにとって、無関心ではいられない

重要な問題です。そのため、いろいろな疑問が寄せられています。

「私は、現在中学校で非常勤講師をしています。非常勤講師であっても、免許状更新講習を受けなければならぬのでしょうか。」という方がいます。教壇に立つためには、このような方も、年齢により講習を受ける必要がでてきます。

「教員免許状をもっているけれども、現在は専業主婦として子育てをしています。私も免許状更新が必要なののでしょうか。」という方がいます。そのような方は、更新講習を受けるよう求められる対象ではありません。ただし、教育委員会に講師の候補として登録するとしたら、その段階で終了確認期限を過ぎていれば更新講習を受けなければなりません。

他にも質問があるという方はおられるでしょう。文部科学省のウェブサイトなどに詳しい解説が掲載されていますので、ぜひそれをご覧ください。（http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/）

3 来年度実施に向け 総力をあげチャレンジ

本学では、このような変化に即応して、社会的責任を果たそうと、以前より準備を重ねてきました。2007（H19）年11月には「教員免許状更新講習実施委員会」を設置し、学内の実施体制確立に努めてきました。私は、その実施委員会のもとに置かれた「専門委員会」の委員長に当たります。

この制度に対する疑問や批判がないわけではありません。日本全体でどれほどの人が受講しなければならないのか。開設のための費用を誰がどのように負担するのか。受講料がいくらになるのか。さまざまな不確定要素が残されており、これらについて日本全体にわたる制度が確立されることが求められています。

大阪にある教員養成系大学として、本学も責任を果たす必要があります。大阪府内だけでも1年間の受講者は5000人とも言われます。本学では、必修講習については3000人、選択講習については2000人が受講できるだけの講習開設をめざして議論を重ねてきました。その結果、

2008（H20）年9月現在で必修講習が3000人規模、選択講習は2300人規模を定員とする講習開設のめどが立っています。学内の研究組織であるすべての講座から講習が提供されます。また、対象も、幼稚園から高校までにわたる講習を用意しようとしています。これは、考えられる限り、本学の構成員が最大限の努力をここに注ぎ込んだ結果です。

本学における講習実施時期

本学では、天王寺キャンパスを主な会場として、次のような時期に講習を開催する予定です。年度はいずれも2009（H21）年度です。詳しくは、文部科学省の承認を受けて、本学のウェブサイトで今後提供されます。

6月	土曜日に必修講習（200人規模）と選択講習を実施
7～8月 （夏季休業中）	平日に必修講習（500人規模×4サイクル）と選択講習を実施
10～11月	土曜日に必修講習（600人規模）と選択講習を実施
10月	平日夜に必修講習を実施（200人規模）と選択講習を実施

4 本学にとつての意味

本学にとって免許更新講習開設は、社会的責任を果たすというだけではありません。本学の研究組織である講座のすべてが来年度の講習を開設することはすでに述べました。そのようになつた最大の要因は、本学教職員が社会的な責任を感じているという点にあるといえます。しかし、それだけではありません。各地で行われている予備講習などの報告を聴いていると、この講習を大学にとつてのチャンスにしようとしているところもあります。本学においても、今回の講習開設をきっかけに、さまざまな可能性が広がると考えている教職員が少なくありません。以下、個人的な見解も含めて、4点にわたつてその可能性を論じます。

1 学校現場との接点が広がる

まず、今回の講習をきっかけに、本学自身がよりいっそう学校の現場と結びつき、学校現場との接点を増やし、広げることができそうです。講習の受講者は、教員経験10年以上の経験豊富な教員です。



研究会参加者たちがアイヌ民族の踊りバツキウボを踊る



天王寺キャンパスでのグループワークによる教員研修

講習の内容を見る視点も厳しいものにならざるをえないでしょう。講習の最後には、受講者がその講習を評価するアンケートも位置づけられています。そして、その結果は文部科学省を通じて公表されることになっています。いわば、大学の教育・研究力が経験豊富な教員によって評価されるということです。厳しい評価を受ければ、それを手がかりに今後の教育・研究を発展させること

ができます。また、高い評価を受ければ、この講習をきっかけに大学教員が学校現場に招かれることも増えるでしょう。

2 基礎的研究にも高い評価

現場にとつての意義は、いわゆる基礎的研究であるか実践的研究であるかを問いません。これまで本学では、教育委員会とも連携しつつ教員を対象とする研修を実施してきました。現職教員によるそれらの研修への評価によると、いわゆる基礎的研究を中心に据えた講義中心の研修も内容により高い評価を得ています。逆に、ワークショップ型など一見実践的な研修であっても、現場のニーズにマッチしていなければ厳しい評価になることもあります。

この講習は、基礎研究を重ねてきた大学教員が現場教員に接する重要な機会になるといえるでしょう。いわゆる基礎的研究に携わる教員にとつて、授業研究を専門とする教員に比べると、現場との接点は必ずしも多くない場合があります。けれども、それが教育に関する研究であり、子どもに関する研究である限り、現場にとつて深い意義を持つことになるでしょう。

3 本学教員のネットワーク拡大

本学の教職員がこの講習をきっかけに学内外のネットワークを広げることにも通じます。すでに、必修講習の実施に関わっても、選択講習の編成に関わっても、学内でチーム編成が進められています。その中には、講座内での協力チームもあれば、講座の枠を越えた協力チームもあります。従来の大学では、学内での共同研究は思いのほか少なかつたと言えます。この講習を一つのきっかけに、教員同士のネットワークが広がることを期待しています。附属学校や学校現場教員に協力をお願いする場面も出てくるでしょう。現場教員との連携により、本学の研究についても意義がわかりやすくなることでしょう。

4 学校現場にとつて本学がより有意義な存在に

上の三点とも関連して、今回の講習開設は、本学が学校現場にとつていっそう有意義な存在となる足がかりだといえることができます。教員免許状更新講習というのは、必ずしも望まれて誕生した制度とは言えません。しかし、この制度を活用することによって、本学に限

らず、学校現場と大学が連携を深めることもできるかもしれません。本学としてもその可能性をフル活用して、今後の方向性を見定めていきたいものです。

5 お気軽に問い合わせを

教員免許状更新講習のプログラムは、11月に文部科学省に申請し、その後承認を待つて広く公表することになります。現在の段階では、一つの講座について詳しく論じきれないのが残念です。もしも、確かめたいことなどがありましたら、ぜひお気軽に本学の更新講習係までご連絡ください。

問い合わせ先

大阪教育大学 学務部
国際交流・研究協力課 更新講習係

TEL: 072-978-3558

FAX: 072-978-3554

E-mail: koushin@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

専攻専門科目 「心理学基礎実験」・「心理学研究法」

『心理学における実験と統計の大切さ』



教員養成課程 学校教育講座
教授 高橋 登
たかはし のぼる

心理学を専攻する学生は、2年生になると実験演習(心理学基礎実験)と統計(心理学研究法・私が担当しているのはこちらの方です)の授業を受けることになります。高校までは心理学という授業科目はありませんから、学生はみな大学に入ってから初めて心理学を系統的に勉強します。なかでもこの実験と統計の授業を通じ、人の「こころ」について科学的に探求することの面白さと難しさを知ることになるのです。

実験演習では、自分自身を対象とした様々な実験を通して知覚や記憶のような人間の基本的な情報処理のメカニズムについて学び、また性格検査などを行うことで自分についての理解と洞察を深めていきます。それだけでなく、こうした実習を通して実験計画の立て方や性格検査の成り立ちのような、心理学研究を進める上で必要になる知識を実地に学ぶこととなります。さらにそれを毎週レポートにまとめ、提出します。単なる「感想文」とは異なる、科学的なレポートの書き方を学んでいくのです。毎回毎回真・赤に添削され、ときには書き直しを求められますからなかなかきびしい経験ですが、そうした経験を通してみな力をつけていきます。

統計も心理学を学ぶ上では避けて通ることができません。たとえば「血液型B型の人A型の人よりマイペースだ」「ウソです、そんなこ

とはありません。

あくまでたとえの話です。)という主張が正しいかどうかをどうやって調べたいのか、またどのようなデータに基づけばそれが「正しい主張である」と結論づけることができるのか。こうしたことを知るためには統計学の知識が欠かせません。統計学の論理には独特のものがあ



があり、慣れるまでは皆かなり苦しみますが、理屈がわかると面白くなってきました。面白いと思えるところまでたどり着かない人ももちろんいますが、それはそれで貴重な経験だと思っています(ちよと開き直り)。

実験にしても統計にしても、学生にとっては負担の大きな授業ですが、受動的に知識を増やすだけでなく、自分で自分を鍛え、高めていくのが大学の授業の大事な目的です。そうやって自分の力がついていくことを実感し、それを自信につなげていってほしいと思っています。(ちなみに心理学コースは教員・学生・大学院生の仲がいいのがちよと自慢なのですが、それは馴れ合いではない、こうしたきびしさに裏打ちされたものだと思います。)

教養基礎科目「健康科学への招待」

『誰にでもわかる
健康科学』教養学科
授業紹介
 教養学科 健康科学講座
 教授 たかおり 高折 かずお 和男

教養基礎科目として「健康科学への招待」を開講しています。これは1回完結型で健康科学コースにおいて開講している講義（解剖学、栄養学、健康管理学、薬理学等）のエッセンスを毎回90分以内のストーリーにして10数回紹介しています。



健康科学コースの学生さんにとっては、4年分の予習を1回生の前期に先取りできますし、それ以外の学生さんにとっても健康問題とは無縁の人は二人もいないはずですので興味を持って出席していただいています。200人入る教室でいつも席は満員、床に座る人、後ろで立つて講義を聞く人もいる状態です。この講義のポリシーは「予備知識のない人が聞いてもわかる話をする。」という点です。つまり高校時代や受験で選択していなかった科目の知識を一切要求せず、また実習等で講義を休んだ次の週もすんなりと授業に溶け込めるというのが特徴です。教員の立場で言う受講生の多い講義はスライドを使ってやると毎年同じ話ができ

て準備が楽です。しかしながらスライドを使うとどうしても居眠りをする学生が増えますので、この講義ではスライドは使いません。また受講生が多すぎるので資料も配布しません。自分自身のための講義ノートもあります。私の知っていることについてアドリブを交えて話し、キーワードだけ板書しています。これだけの大人数で公正な試験をするのは困難なので毎回、講義の最後にコミュニケーションカードに小テスト代わりの短い文を書いて提出してもらって成績評価しています。だいたいはその日の講義の要点についてです。

必死に勉強しないと合格しない専門科目がある一方では、まじめに出席すれば単位は保障される教養基礎科目があつてもよいかと思えます。学期末の授業評価では「資料を配布して欲しい。」「もう少し板書して欲しい。」「くじ引きでもして受講者数を制限して欲しい。」「といった希望や、「世間話を交えながら、本もノートも見ずに学生の方に顔を向けてゆつくりと話すのでわかりやすい。」「といった意見が出ています。それでもおおむね学生さんの評価は好意的です。で来年度もこのポリシーを変えるつもりはありません。賛同していただける方の受講は何名でもお待ちしておりますので、興味のある方は来年度是非受講して下さい。

国際センター

留学生交流の推進と国際的な教育研究活動の充実をめざして
多様な文化に出会い、国際的な視野を広げる

国際センター長
向井 康比己
むかい やすひこ

大阪教育大学留学生センターは、この7月に国際教育部門と国際事業部門からなる大阪教育大学国際センターに改組されました。大学等のグローバル化推進のために、留学生30万人の受入れ計画が実施されようとしています。国際化はもとより、世界基準の大学を目指して、すなわち国際的に通用する大学教育の二層の強化が求められています。教員養成大学として中核的な役割を担っている本学が、世界に開かれた大学として、国際的な人材養成や国際教育協力をより積極的に行的に行っていく必要があります。国際セン

ターは本学における留学生交流の推進、国際的な教育研究活動の充実をはかるための学内共同利用施設です。

国際センターの国際教育部門はこれまでの留学生センターの3名の教員が、新たに設置された国際事業部門には2名の教員が配置されます。センター長と専任教員の他に6名の兼任教員がおり、これらのメンバーが中心となつて、国際交流・研究協力課の職員と共に本センターを運営しています。国際教育部門では、留学生の日本語教育、日本人学生および留学生を対象とした国際理解教育、交流協定校との学生交流プログラムの推進、日本語・日本文化研修留学プログラムの推進が主な業務です。国際事業部門では、協定校との学術交流の推進、海外教育研究機関との連携、国際協力事業の企画・推進等を担当します。



国際センターでの新しい取組みをいくつか紹介しましょう。その1つは、本学の教員がオムニバス方式により英語で授業を行うもので、留学生だけではなく本学の学生なら誰でも受講することができま

す。多様なトピックで、内容も興味深く面白い授業です。20年度前期は教材園でのフィールドワークに始まり、日本の言語や文化についての授業がありました。後期には、日本の教育に関する講義も加わります。2つ目は、留学生による無料語学教室です。英語、中国語、ドイツ語、フランス語、韓国語が開講されていて、外国語の勉強に興味を持つ日本人学生が熱心に参加しています。交換留学を希望する日本人学生の語学力UPにも貢献しています。3つ目は、留学生の修了レポート発表会です。日本語のスピーチを含めその内容も日本人学生の卒論発表会に劣らないほどで、留学生の優秀さには改めて感心しました。

本学は、10か国18の大学と交流協定を結んでおり、現在17か国から109名の留学生が学んでいます。一方、本学の学生もこれらの提携校に語学研修を含めて数十名が留学しています。留学生をよりスーム



ズに受け入れるため、本学の教職員が今後も努力を重ねていきますが、地域の皆様のあたたかいご支援も、これまで以上に必要になるかと思っています。留学生たちは、本学で日本語・日本文化そして教養や専門科目を学び、本国に帰った後も本学や日本に対するよき理解者となつていきます。国際センターは、学生の国際的な視野を広げ、世界の人々とコミュニケーションできる力を育成するために、また本学の教育研究の成果を世界に向けた情報発信にお役に立てればと思っています。

大阪教育大学附属高等学校 平野校舎

●学力の向上をめざす健全で創造性豊かな人格の育成
●国際的視野に立ち自他を敬愛する人格の育成

附属高等学校平野校舎
副校長 齋藤 正俊
さいとう まさとし

1 本校の概要

本校は1972年(昭和47年)4月8日、第1回入学式が行われ、「大阪教育大学教育学部附属高等学校」として3番目に設立された。第1期生は男子56名、女子58名の計114名、全て附属平野中学校の出身者であった。初年度は中学校の空いた3教室を間借りして出発したのである。新校舎の建設は、昭和48年、中学校の体育館を移動し、そこに中・高並列の形にした校舎が建設された。なお、体育館の移動は引き家工法を用い1日3mしか移動できず、全工事予定期間の半分を費やしたという。その後、平成6年には新プールの完成、平成8年には新体育館が完成し、現在に至っている。

2 本校の特色

1 良好な人間関係と進路保証



本校は1学年3クラス、全体で9クラスの小規模校である。したがって教員と生徒、生徒間の人間関係が近く、この利点を生かして、年間1・2

年生では2回、3年生では3回以上の3者面談を行い、家庭との関係が密接になるようにつとめている。また、学力面では、2年次までは基礎・基本の徹底を目指すし、全員が共通のカリキュラムで学んでいる。そのため、文・理の選択は3年次から実施している。進路指導については生徒にとって適切な進路選択ができるように、1・2年次には年間2〜3回、3年次では10回程度の進路ガイダンスを行って大学の情報提供をしている。

2 学校行事や体験学習の重視

知識・体験・探求を柱として、1年次の行事としては、創立当時の林間学舎に

はじまり、その後何度か実施場所を変えながら、現在、オリエンテーション合宿として存続している。2年次の修学旅行は学年が生徒の意見を尊重し、方面と内容を決定している。他の行事についても、平成18年から希望者対象に、総合学習の体験学習が沖縄、南信州で実施された。沖縄の体験例を挙げると離島の伊平屋島に行き、空き民家に宿泊し「島のスローライフを体験する」と称して、自分たちでプログラムを考え行動している。体験ダイビングやシークワサーを取りに行きジューズを作った班、沖縄おやつのサーターアングギーを島の方の指導を受けて作った班、海の浅瀬で貝や蟹取りに夢中になった班、全員で網を仕掛け夕食の魚を捕りに行くなど、都会では味わえない経験をしている。



3 自主自立の精神

行事はほとんど生徒たちがプログラムを組んで行ってきた。特に生徒会行事の文化祭、体育祭や球技大会は毎年実施しているが、その都度「今年は実施するのか」というところから生徒総会で決めている。教員は助言や手助けはするが計画立案は生徒たちが協力し合って考え、生徒会行事を進めていく。自主自立は自主自律でもあり、自分を律し常に自主性をもって行動する事を生徒個人に考えさせている。

3 最後に

以上のように、本校は教科学習だけでなく行事、体験学習や国際交流を通して、見える学力と見えない学力の両者をしっかりと身に付け、将来、社会に貢献できる人間を目指すことを目標としている。



2004(平成16)年4月、国立大学法人化にともない「教育学部」がはずれ「大阪教育大学附属高等学校平野校舎」となった。

大阪教育大学リポジトリ

“大阪教育大学がまるごとわかる” インターネット図書館をめざして

『大阪教育大学リポジトリ』は昨年11月に正式公開されました。『大阪教育大学リポジトリ』とは大阪教育大学が生産した教育・研究成果物をインターネット上で公開するシステムのことで、一種のインターネット図書館です。これまで、大学の教育・研究成果物を読むためには図書館に行って、本を探すことが必要でしたが、このリポジトリを使えば、ネット上で論文本文が読め、写真などの画像も見ることができるといった便利なものです。しかも、利用申請をしなくても誰でも無料で利用できます。

現在、『大阪教育大学リポジトリ』では1200件あまりの教育・研究成果物を公開しています。その内容は、紀要や学内刊行物、研究報告書、教材、学術雑誌掲載論文、図書などあらゆる形態のものです。紀要は現在刊行分から過去7年分までを収めており、特によく利用されています。また、本学所属の教員が執筆した学術雑誌掲載論文も公開しています。実験のために作られた教材も画像として公開しており、一部動画もあって、見ていだけでも楽しいものです。

キーワードから本文を検索したり、大学の教員の名前から検索すると、論文一覧を見ることができます。きっと思わぬ教育・研究成果物に出会えることでしょう。

今後『大阪教育大学リポジトリ』は学内で刊行された研究報告書などを中心に幅広く教育・研究成果物を公開していく予定です。

特筆するものとして、本学の持つ貴重資料やデジタル教材などの公開も計画しています。何より大阪教育大学ならではのものをできるだけ多く収集し、公開していきたいと思っています。

そして、将来的には“大阪教育大学がまるごとわかる『大阪教育大学リポジトリ』”となることを目指しています。

是非一度『大阪教育大学リポジトリ』をご利用ください。

※著作権法の範囲内でご利用下さい。

大阪教育大学リポジトリ

<http://ir.lib.osaka-kyoiku.ac.jp:8080/dspace/>



紀要論文・学術雑誌掲載論文・刊行物掲載論文・図書・科研費報告書・ポスター・プレゼンテーション資料・教材・学位論文など著者が登載を認めたものを公開

《現在の収録例》

■紀要本文収録
“肥満傾向にある中高年女性に対するダイエット教室の効果(2)”
— 食行動の改善と栄養素摂取状況 —

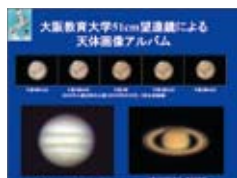
■教授用掛図コレクション
“上古貴人男女風俗”

■教材
“おどるモール”(動画)

《まもなく公開予定》

■古地図コレクション
“大阪冬の陣合戦図”など30点

■授業に役立つデジタル教材
“買ひ物の達人になろう”など18点



新役員紹介



学長

ながお あきお
長尾 彰夫

・大阪科学大学教育学部卒
・大阪大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学
・文学修士
・大阪教育大学副学長
・国立大学法人大阪教育大学理事
・国立大学法人大阪教育大学長
任期:2008年4月1日~2012年3月31日



理事(財務担当)

くればやし すみお
栗林 澄夫

・富山大学文学部卒
・大阪大学大学院文学研究科修士課程修了
・文学修士
・大阪教育大学副学長
・国立大学法人大阪教育大学 理事
(兼:副学長)(2004.4~)
任期:2008年4月1日~2010年3月31日



理事(総務・企画担当)

いかわ まさし
岩川 雅士

・文部科学省大臣官房人事課福利厚生室長補佐
・琉球大学総務部長
・神戸大学総務部長
・名古屋大学総務部長
・国立大学法人大阪教育大学 理事
任期:2008年7月1日~2010年3月31日



理事(教育研究担当)

きだち ひでゆき
木立 英行

・名古屋大学理学部卒
・京都大学大学院理学研究科物理学博士課程修了
・理学博士
・大阪教育大学夜間学部主事
・国立大学法人大阪教育大学 理事
任期:2008年4月1日~2010年3月31日



理事(附属学校・地域連携担当)

なりやま はるひこ
成山 治彦

・大阪大学文学部卒
・大阪府教育委員会教育監
・立命館大学接続教育支援センター教授
・国立大学法人大阪教育大学 理事
任期:2008年4月1日~2010年3月31日



監事(業務担当)

のぐち かつみ
野口 克海

・大阪学芸大学学芸学部卒
・堺市教育委員会教育長
・大阪府教育委員会理事兼教育センター所長
・園田学園女子大学教授
・国立大学法人大阪教育大学経営協議会委員
・国立大学法人大阪教育大学 監事
任期:2008年4月1日~2010年3月31日



監事(会計担当)

にし やすひろ
西 育良

・東京大学経済学部卒
・監査法人トーマツ代表社員
・独立行政法人文化財研究所監事
・社団法人大阪府看護協会監事
・国立大学法人大阪教育大学 監事
(2004.4~)
任期:2008年4月1日~2010年3月31日

学生チャレンジプロジェクト

大阪教育大学では、学生が自主的・創造的に活動できる場を提供し、大学生活をより充実したものにするため、学生の自主的活動を支援しています。平成20年度においては、以下の6事業を実施しています。



実施時期:平成20年7月～

プロジェクト名 校内大清掃 ～輝きを取り戻せ☆～

中学校教員養成課程理科専攻3回生の学生を代表者とし、普段では手の付けづらい場所の清掃をすることで校内美化を図り、本学に在籍している人たちの美化意識向上を図る。



実施時期:平成21年2月(予定)

プロジェクト名 Dance and Arts Communication ～second nature～

中学校教員養成課程保健体育専攻3回生の学生を代表者とし、学内のダンス・音楽・美術等の舞台芸術に関わるクラブ・サークル活動の交流の機会として、また、本学学生が現在ダンス指導等に関わっている地域スポーツクラブの子どもたちとの交流の機会として、ダンス発表会、子どもたちの美術作品の展示を企画運営する。



実施時期:大学祭期間中(10月29日～11月3日)を中心とした期間

プロジェクト名 大阪教育大前駅アートプロジェクト'08

教養学科芸術専攻3回生の学生を代表者とし、本学の玄関ともいえる近鉄大阪線大阪教育大前駅をアートで飾り、また、近鉄難波駅・鶴橋駅等にポスターを掲示し、大阪教育大学の個性・色を際立たせることで、駅から大学をアピールする。

プロジェクト名 つながる「まち」アートプロジェクト

実施時期:
平成20年11月
(完成予定)

教養学科芸術専攻3回生の学生を代表者とし、近鉄大阪線堅下駅周辺の3つの施設のシャッター、壁面に絵を描かせてもらうことで、地域との交流、活性化につなげる。

プロジェクト名 PECOからはじめるECO

実施時期:
平成20年10月～
平成21年1月

小学校教員養成課程家庭専攻3回生の学生を代表者とし、本学学生を中心とし、柏原市の商店街の空き店舗を利用して地域連携活動を行っているコミュニティスペース「PECO」をとおして、環境問題を考える機会を持つ。

プロジェクト名 構内清掃企画(草刈り、キャンパスクリーン大作戦)

実施時期:
年間を通じて

小学校教員養成5年課程2回生の学生を代表者とし、天王寺キャンパスの校内美化を図るとともに、美化意識向上ポスターを作成し、構内外にゴミ放置をしない公共意識を高める訴えを行う。天王寺キャンパスを使用する第二部学生を中心に、教職員、放送大学生、附属天王寺中・高等学校生徒との共同作業により、相互の連携と交流を深め、人間形成の一端を担うことを目指す。

平成21年度入試日程(平成21年4月入学)

区 分	出願期間	入試日	合格発表日
教育学部第一部	センター試験を課さない推薦	11/1～7	11/15・16
	センター試験を課す推薦	12/15～19	1/21・22
	私費外国人留学生	12/15～19	1/21
	一般	前 期 後 期	2/25・26 3/12
教育学部第二部(夜間)	小学校5年課程	前 期	2/25
		後 期	3/12
	小学校5年課程3年次編入学	1/6～9	2/14・15
特別支援教育特別専攻科	特別支援教育専攻	12/15～19	1/31
			2/20

入試日程に関するお問い合わせは TEL 072-978-3324 までお願いします。

現職教員や社会人をはじめ広く一般の方々に学習機会を提供するため下記の制度を設けています

区 分	出願期間	備 考
科目等履修生	前 期……………3月上旬	出願要項は1月上旬頃配布 (予定)
	後 期……………8月下旬	

科目等履修生とは、学部又は大学院の正規の授業を履修し、試験に合格すれば単位を取得できる制度です。

各種免許・資格の取得や特定のテーマについて専門的に学びたい方などが受講されています。

本学の授業に支障をきたさない範囲において選考の上、履修が許可されます。

科目等履修生に関するお問い合わせは TEL 072-978-3297 までお願いします。

区 分	出願期間	備 考
研究生	前期又は1年間… 2/16 ～ 20	出願要項配布中 ※外国人留学生は出願期間の 一ヶ月前から書類確認期間 が別に設けられています。
	後 期……………8/24 ～ 28	
	前期又は1年間…11/4 ～ 10	
	後 期……………5/11 ～ 15	

研究生とは、学部又は大学院を卒業・修了された方が、指導教員のもとで、特定の研究テーマに対して指導を受ける制度です。

研究生に関するお問い合わせは TEL 072-978-3297 までお願いします。



大学機関別認証評価

本学は、平成19年度において大学評価・学位授与機構による認証評価を受審し、全ての大学評価基準を満たしているとの認定を受けました。

『天遊』とは

「天遊」は、荘子の言葉から引用されたもので、人間の心の中に自然に備わっている余裕をあらわしています。キャンパス統合移転の記念に旧師範学校以来の同窓会3団体から寄贈された記念碑に銘文として刻まれています。

記念碑の揮毫は、水嶋昌(山耀)

本学名誉教授によるものです。



本誌にご意見をお寄せください

本誌『天遊』は今後の誌面づくりに皆様のご意見を積極的に取り入れていきたいと考えています。ご感想やご意見、大阪教育大学についてお知りになりたいことなどを綴じ込みのアンケートはがきによりお聞かせください。

●宛先 〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-698-1
国立大学法人大阪教育大学企画課
TEL.072-978-3344 FAX.072-978-3225
E-mail kikaku@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

webページ <http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/>

開学60周年記念事業を開催

平成21年度に本学は開学60周年を迎えます。

開学60周年を記念して、平成20年12月から平成21年

11月にかけて、各種記念事業を開催します。

当面、12月から1月にかけて下記の事業を開催します。

「フィンランドの先生-学力世界一のひみつ」出版記念シンポジウム

日時:平成20年12月6日(土) 13時～

場所:本学天王寺キャンパス ミレニアムホール

地域連携学校教育フォーラム

日時:平成20年12月7日(日) 13時～

場所:本学天王寺キャンパス ミレニアムホール他

学校組織の危機対応教育プログラム開発事業フォーラム

日時:平成21年1月10日(土) 13時30分～

場所:たかつガーデン

この他、順次記念事業を開催しますので、皆様のご参加をお待ちしております。なお、詳しくは、大学Webページ

<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/>

当該事業案内ポスター等でお知らせして参ります。